

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年8月20日第21号 (通巻27号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax:072-737-9454

mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp

facebook:oribunokai



イスラエルのガザへの攻撃を非難する。

8月6日、イスラエル軍は、ガザへの攻撃を行い、40人以上の一般市民を殺害した。これまでの攻撃と違うのは、パレスチナ側が攻撃した報復ではなく、イスラム聖戦が作戦を準備しているという情報に基づいて、イスラム聖戦への先制攻撃をおこなったことである。モサドの発表では、イスラム聖戦を標的とすることで、ハマスと分断することも目的であったとのことである。

そして、攻撃の正当化のために、イスラム聖戦はイランの支援を受け取り、イスラエルの生存を脅かすものであると強調した。

その背景には、ラピド率いる暫定連立政権が、秋にも予定されている総選挙で、ネタニヤフのリクード党に敗北することが、世論調査明確であり、右傾化したイスラエルの世論を引き付けるためには、パレスチナに対して強硬な態度をとることが求められていた。この攻撃のあとの世論調査では、ネタニヤフよりも支持をみつめ、狙い通りの結果となった。

そして、多数の民間人の犠牲の上に、イスラム聖戦の軍事指導者2人を殺害した。これに対して、バイデン米国大統領は、多くの人命を救ったとイスラエル賞賛した。パレスチナ人の命は人命に入っていないようだ。米国から支援を受けているロシアの侵略とたたかうウクライナは、テロリスト闘うイスラエルを賞賛した。あたかも、パレスチナがイスラエルの侵略とテロにさらされていなかのように。

ガザ攻撃に続いて、8月9日ナブルスをイスラエル軍が急襲し、銃撃戦の末、ファタハ系の軍事組織アルアクサ殉教者旅団の指導者を殺害した。この明確な意図はわからないが、j地政府に対しても、脅しをかけたのではないと思われる。

彼らのダブルスタンダードは明確である欧州人、ユダヤ人の命は大切だが、彼らに苦しめられているパレスチナ人の命は人命に値しないように見える。圧倒的な力のロシアから攻撃されているウクライナイには、欧米は支持するだけでなく、高性能な武器を送り込み深淵をしている。

イスラエルの攻撃にさらされているパレスチナへはそのような支援は来ないし、テロリストとして制裁を受けている。そして、ガザは、イスラエルとエジプトによって封鎖されており、そこへの攻撃がどれだけ、人命を脅かすものかは、これまで繰り返されてきたイスラエルの攻撃で明白です。

アラブ諸国も、先制攻撃と民間人の犠牲には、抗議の声をあげています。また、この攻撃は、レバノンのヒズボラへの脅しであるともいイスラエル軍は考えています。

いまこそ、パレスチナへの国際的な支援が問われている。侵略と占領を許さない、また、アパルトヘイト政策に反対する国際的な声を強めていく必要があります。



米国の中東戦略とパレスチナ

7月13日バイデン米国大統領は中東歴訪を行った。最初の訪問国は、イスラエルで46時間滞在した。行ったことは、イスラエルとの共同の強化だけでなく、中東版クワッドとして、米国、イスラエル、インド、UAEによるオンラインの会議が行われた。アジア版クワッドのインドが入っていることであった。

続いて、東エルサレムで病院などを訪問したあと、ラマラーではなくベツレヘムに飛び、生誕教会を訪問し、アッバース大統領とも会談した。この間たった3時間であり、シャリン・アブアクレの家族からの面会の要求には応えなかった。そのあとサウジに飛び、カショギ暗殺の首謀者として非難していたサルマン王子とも会談し、石油の増産をもとめただけでなく、そのあとアラブ首脳会議に参加し、アラブとイスラエルの正常化を図ろうとした。

この訪問で明確になっているのは、パレスチナ問題が、中東和平の中心問題ではなくなっていることである。トランプ政権が見抜いていたように、アラブ諸国は、アラブの大義という抽象的なものよりも、自国の利益を第一とする立場をとった。そのため、経済的利益と自国の安全を第一とする立場からイスラエルと同盟することをいとわなくなった。トランプ政権は、このサークルにパレスチナ自治政府を組み込んで、世紀の取引を完成させようとした。

その目的は、イスラエルとアラブの同盟を形成し、米国の存在がなくてもイスラエルとの関係で、反イラン同盟として形成することで、米国の存在が無き後の中東の安全保障体制をつくることであった。当然これには、パレスチナ、アラブの大義は不要なものであり、各国が自己利益を第一として、中東体制をつくることであり、アラブ諸国にとっての脅威は、イスラエルではなく、イランであった。

バイデンは、二国家解決を支持するが、いまその時期ではないといったように、パレスチナ問題が中東和平のカギではなくなっている。それは、パレスチナに3時間

しか滞在していないことにも表れている。バイデンは、トランプとの違いをいいながら、トランプが、敷いたレールの上を走っているだけで、何ら変わりはない。バイデンの売り物の人権問題でも、サウジとの関係を再開したように、2次的になっている。

ロシアのウクライナ侵略で、欧州の安全保障環境が大きく変わり、NATOの関係が強まり、インド太平洋では、中国に対抗してクワッド、さらに新たな軍事同盟が作られた。しかし、すでに経済がグローバル化しているなかでの戦争は、経済的な矛盾を作り出し、また、直接当事者でない世界までをまきこんで、経済危機を拡大させている。

その中で、中東が米国の戦略の中で抜け落ちており、今回中東版クワッド、アラブとイスラエルの同盟の強化によって、ロシア、中国、北朝鮮、中東ではイランという権威主義的政権への包囲網をつくった。しかし、これは、彼らが言うような民主主義対権威主義ではない。その証拠に、ロシアの侵略に対して、ウクライナを支援しながら、パレスチナに対する侵略、占領に対しては、侵略者、占領者のイスラエルを支持するというダブルスタンダードに立っている。パレスチナは、そのため、イスラエルと対峙しようすれば、権威主義政権であるイラン、ロシアに頼らざるを得ない状況がある。イスラエルは、それを口実に、ハマス、イスラム聖戦を非難し、その攻撃を正当化してきた。米国とイスラエルは、反テロの陣営に自治政府を組み入れ、パレスチナの分断を進めてきた。トランプ政権に失望し、バイデンの米国の支持に期待してきた自治政府でさえ、別の仲介者をさがしはじめている。

冷戦時代には、民族解放を目指す諸国は、社会主義諸国と同盟し、帝国主義とたたかってきたが、民族的な独立を求めようすれば、権威主義的な政権と帝国主義とのバランスの中に自立をめざすことになるだろう。



世界秩序の歴史的側面

投稿日：2022年07月12日 | 21:22 (PFLPのホームページより)

今回は、2014年にヘンリー・キッシンジャーが出版した『世界秩序』という本で述べられていることの一部を取り上げ、さらに議論することを約束しました。今回の読書会では、前回の読書会ですでに簡単に触れた点に議論を割くことにします。

キッシンジャーが世界秩序について注目したのは、ウェストファリア協定であり、彼はこれを国際関係を規制する契約を確立するための最初の柱と考え、一方でこの協定はヨーロッパ大陸に限られたものであり、決して国家間の関係のあり方の基礎を築くためのものではないことを強調しています。そしてそれは、国家間の関係の新しい形の基礎を築いた、歴史的蓄積の産物としてのみ考えることはできない。この協定は、ヨーロッパ大陸特有の状況に対応するものであり、平和の必要性、安全の達成、数十年にわたってヨーロッパ大陸を支配し何百万人もの死者を出した戦争を終わらせる方法によって決定されたものであった。

ウェストファリア協定は、その余波を受けた一過性の局地であり、その影響は限定的で短期間であったため、それが達成したことは人類を救う羅針盤とは言えないことをこのハディースで記録しておく。この協定は、ヨーロッパ大陸における戦争の再発を防止するものではなかったし、この協定が生まれた環境の中でさえ、戦争の勃発を防止するための実際的な統制を定めたものでもなかったのである。

キッシンジャーは、折衷主義を特徴とする純粋な西欧中心主義から読み解くことから出発した。彼は、人類史全般、特に近代における主要な戦争が、ヨーロッパ大陸の原風景であったことを忘れていた。ウェストファリア条約は、人類に対する絶滅戦争の遂行を妨げなかった。それはヨーロッパ大陸だけでなく、アメリカ大陸やオー

ストラリアにまで及び、アメリカン・インディアンと呼ばれるようになった人々のように、しかしそれに限らず、先住民の完全な根絶を目撃したのである。

ウェストファリア条約は、ヨーロッパ大陸の血なまぐさい紛争がなければ存在しなかったと、少し遠慮がちに言うことができる。つまり、危機の産物であり、人間の発明に加え、純粋に創造的な仕事ではなかったのである。当時のアジアやアフリカの国々は、争うもの同士のパワーバランスが均等でなかったため、その合意を表す必要はなかった。オスマン帝国の支配は、征服者メフメトの時代から劇的に、あらゆる方向に拡大し始め、それはバヤジット、セリム、スレイマン大帝というスルタンの時代にも続きました。彼は戦いに勝利することができた。

彼の軍隊は、スルタンであるスレイマン大帝の時代にはオーストリアに到達した。当時のスルタンの弱点は、トルコの隣国であるイランとの関係であった。戦争当事者の軍隊は、どちらかに有利に戦いを解決することができず、両者の間で頻繁に休戦を余儀なくされたが、どちらかが自分に有利に戦争を解決できると思うとすぐに崩れてしまった。

確かに、これまでの協定では、独立や主権という言葉は、ヨーロッパにおける国民国家の出現に関連していたため、語られることはなかった。ここで、根本的かつ緊急の疑問が生じます。ヨーロッパの言語はすべてラテン語という一つの言語から派生しているにもかかわらず、中華帝国、アラブ征服、オスマントルコのように、大陸を統一することのできる単一の指導者がなぜ現れなかったのでしょうか。

おそらくその答えは、ヨーロッパにおける政治権力の構図が二重構造になっていることにある。ローマのローマ法王の権威は、常に、特に十字軍の時代には、ヨーロッパの指導者たちに対してほぼ万能であった。ヨーロッパで政治的統一を達成することは、大陸とその指導者に対する教会の支配力を弱めることになるので、教会の利益

オリブの会通信 第21号(通巻27号)

にはならないのであった。こうしてヨーロッパ大陸は分断されたままとなり、教会が敗北し、ローマ市内の小さな地区、つまりバチカンに退却させられ、そこで信徒に対する霊的権威を行使し、神に属するものとシーザーに属するものの区別を回復するまで、その運命の主導権を握ることができなかった。

私たちが言及した事例では、特にアラブ・イスラーム文明圏、そしてスルタン時代には、宗教的権威と政治的権威の区別が明確であり、これらの国々の事務管理は政治家のものであって、聖職者のものではなかったのです。



これは決して宗教的な制度を軽んじているわけでも、その役割を減らしているわけでもない。

それは第一次、第二次世界大戦というヨーロッパの戦争の頂点に達し、アメリカが歴史上初めて恐怖の核兵器を使用し、広島と長崎の都市を破壊した後、その野蛮さが明らかになった。その後続いたのは、敗者に支配と力を押し付ける力の専制であり、選択の自由は、キッシンジャーが示したように勝者の信条による支配ではなく、勝者と敗者の間の法則であったのである。



7月23日革命の原則について

投稿:2022年08月05日 | 18:23' PFLPのホームページより)

ガマル・アブデル・ナセルが率いた7月23日革命の輝かしい記念日は、かつて、革命とその原則の妥当性、そして、国家解放プロジェクトに従ったアラブ国家の復活、さらには、地域・国際レベルでの役割に関する具体的な質問に答えずに、国家・民族の記念日として扱い、過ぎ去った日を歌ったものであった。

革命の現在性について語るとき、アブデル・ナセルが最初の著書『革命の哲学』で、革命のエジプトが優先的に動くべきものとして挙げた「三つの円」、すなわちアラブの円、イスラムの円、アフリカの円の問題について触れなければならない。1955年4月、インドネシアのバンドン会議では、スカルノ、ネルー、チトーなどの上級大統領を含む26カ国が参加し、アラブ問題を支持し、植民地勢力に反対する一連の決定が採択され、彼は後に発展したこれらのサークルには「積極的中立国の制度」が含まれています。

まず、1952年の革命が打ち出し、1961年の7月社会主義法を通じて発展し、現場で適用された、封建制の廃止／植民地主義の排除／資本の政府支配の排除／健全な民主生活の確立／強力な国軍の確立／社会正義の確立と

いう6原則に立ち止まってみよう。

客観的な評価におけるこれらの原則は、サダト政権とエジプトのキャンプ・デービッド支配層の残りの者たちによって背教された後、現在も続いている。今日、エジプトに存在する民主主義は、社会民主主義に基づかない偽りの自由民主主義であり、国軍は、愛国心を疑うことはできないものの、支配階級勢力の手中にある職業装置と化していることは言うまでもない。エジプト経済において重要なウェイトを占め、公共部門の役割の大幅な低下とアブデル・ナセルが率いた7月23日革命が確立した社会主義の手法を取り去った後の悲惨な配分に照らして、社会正義は蒸発してしまったのだ。

7月6原則だけでなく、7月社会主義法とその適用、その結果、自主的な発展と権利が維持された労働者階級、海外からの輸入を放棄するために、消費工場機械と機械の製造のための重工業化、および公共部門の工場の民間への売却と清算によって打た独立発展 農業改革も1967年の戦争後の3(30)声明で、「革命中の革命」とされた業績を記述しています。

そして、アブデル・ナセルが確認した革命の前の円は、核心に打撃を与えた。革命は、国家レベル、そしてアフリカ、イスラム、国際レベルで指導的、先導的役割を果

たした後、資本主義の西側、そして石油国家への依存の
 広場で、シオニスト主体の宿敵、パレスチナ大義のレバ
 ンブリゲードであった後、シオニスト主体の友人となっ
 たのであった。

前述は、これらの原則と濃度は、グローバル化の進展
 に照らして立っていないことなどの文脈に依存すること
 なく、7月23日革命の原則と定数を再考すべきである、
 ラテンアメリカでの開発に照らして偽を証明したそれら
 の文脈は、多くの革命と進歩的な力が力を有効にします
 ベネズエラ、ボリビア、ウルグアイなどの例が、我々の
 前にある。

確かに、新しい変化に照らして、革命の原則の適用に
 相対的な変化があるかもしれない。その本質を損なうこ
 となく、これらの原則を適用できる革命的理論に発展さ
 せ、イスマット・セイフ・アル・ダウラなどの民族主義
 者やナセル主義の理論家による、深刻な理論的試みから
 恩恵を受ける必要がある。“アラブ革命の理論”。そして、
 アブドゥッラー・アル・リマーウィの「一つのアラブ運
 動」は、その重要性にもかかわらず、適用への道を歩まず、
 本や図書館の中に閉じ込められたままであった。どんな
 理論でも - 絶対的な理論でも - その抜け穴を明らかにし、
 それを豊かにするような実践的な応用によって、その有

効性が証明される。

最も重要な問題は、ナセル主義的な国家再生のプロ
 ジェクトの旗を掲げる道具にある。ここで、エジプトと
 アラブ諸国におけるナセル主義政党の歩みを批判的に止
 める必要がある。これまでのところ、彼らは要求される
 文脈から離れ、そのプログラムに照らして、革命的で前
 衛的な政党とは言えない。言うまでもなく、彼らは、政
 党間で満足な競争をしながら生きており、一部の政党は、
 この国やあの国の他のナセル主義政党よりも政権に近く
 なってしまっているのである。

結論として 永遠の7月革命の70周年に、ナセルが取
 り組んだ「前衛党」に代表される組織問題を、ナセル派
 政党を一つの前衛党に統一して、改革主義の視点から革
 命の視点への移行、そしてこの移行によって大きな犠牲
 を払って、国家と社会主義の文脈で革命の成果を積み上
 げていくということが、新しい変化に照らして、どのよ
 うに求められているのかを再考する必要があるのではない
 か。一つのアラブ運動のスローガンを支持し、必要な
 理論的文脈に位置づけ、他のすべての国家、民族、同盟
 の課題に対処し、パレスチナ人の大義に対するシオニズ
 ムの正常化と清算主義の解決アプローチ、およびアラブ
 民族の中心課題としてのパレスチナ人の原因の回復に立
 ち向かう必要な特別プログラムの導出が必要である。



投稿：2022年6月23日 | 22:09 (PFLPのホームページより)

レバノンのパレスチナ解放人民戦線は、「統一と抵抗... パレスチナが勝利する」という題名のもと、そして
 占領された祖国内のパレスチナ人の闘いを支持し、戦
 線の第8回全国会議の終了と作家ガッサン・カナファ
 ニ氏の殉教50周年を機に、パレスチナ革命の殉教者と
 作家ガッサン・カナファニ氏の墓地に花輪を供え、こ
 の機会を再演した。

この記念式典には、人民戦線副事務総長ジャミール・
 メザー「アブ・ワディ」同志、本国からの随行団、レバ
 ノン、バイルートおよびそのキャンプにおける戦線政治

局および戦線指導部のメンバー、同志、パレスチナ抵抗派、
 パレスチナ人民委員会、国家およびイスラム政党・勢力が
 多数出席していた。レバノン人、パレスチナ人、レバノン
 人の著名人、文化・教育・労働組合機関、メディア関係者、
 市民動員、パレスチナ革命の殉教者墓地（バイルート、シャ
 ティーラ円形広場）にて。

式典は、レバノン人民戦線中央委員会のファティ・アブ・
 アリ委員の演説で始まり、出席者を歓迎し、この機会につ
 いて述べた後、人民戦線のジャミール・メザー副事務総長
 が演説し、出席者を歓迎し、殉教者の指導者に敬礼した。

メジャーは次のように述べた。「我々は、殉教者ガッサン・カナファニの墓の前で、殉教者であるわが民族の指導者たちの前にいるのである。アブ・マハー・アル・ヤマニ、アブ・ユセフ・アル・ナジャル、カマル・アドワン、カマル・ナセル、アブ・アル・アベッド・ユニス、すべての殉教者、自由と独立への道で命を落としたすべての戦士たちです。そして、我々は言う。私たちはガザから、抵抗勢力ガザから、血と肉で戦うパレスチナから、そして占領された内部から来た。我々は、戦線が抵抗から逸脱せず、それを放棄しないことを確認するために今日来たのであり、それは対話であり、我々が継続する道であり、解放と帰還まで従うのであり、我々は今日来た。そして、土地を狙い、聖域を狙い、パレスチナ人を殺戮と破壊で狙うこの侵略とシオニストの犯罪性の前で、熱い炭火に縋るように定数を持ち続け、この道、闘争と闘いの道、犠牲の道、犠牲の道を歩み続けることを言いに来たのであります。解放、帰還まで証言

メジャー同志はまた、占領下の監獄からアーメッド・サーダット同志事務総長のあいさつと、ガザ、ヨルダン川西岸、占領下の内陸部のパレスチナ人のあいさつを各派に伝えました。

また、「レバノン、そしてレバノンの首都ベイルートは、レバノンがパレスチナ抵抗の重要な主要拠点であったことから、不動と抵抗、レジスタンスの象徴である」と指摘しました。

パレスチナ日誌

5月15日

- ・ナブルスの東での占領軍との衝突で、7人の市民が窒息した。
- ・アブアクレの葬儀での事件で捜査を行うように要求するイスラエル警察への怒り。
- ・占領軍は、ヒズマに検問所を設置し、sの入り口の一つを閉じた。
- ・ナクバの記念日に、2020年の終わりまで640万にの難民
- ・占領軍は、ペイトウマールを襲撃し、4人の元獄中者を逮捕した。
- ・ナクバの記念日に、入植者たちがアクサを襲撃した。
- ・占領軍は西岸で8人の市民を逮捕した。
- ・占領軍は、みに一えの村で、家族を殴打した。
- ・ナクバから74年
- ・フランス人ジャーナリスト：これが、シャリン・アブアクレのように、イスラエルが私を消そうとした方法である。
- ・占領軍は、負傷したダウド・アルズバイディを逮捕した。
- ・ナブルスーラマラ道路で、入植者たちが、市民の車に投石した。
- ・ジェニンの衝突で負傷したザカリヤ・アルズバイディの兄弟が死

さらに、こう続けた。「殉教者ガッサン・カナファニとすべての殉教者の墓から、我々は解放と帰還まで闘争、闘争、抵抗を継続することを誓う。レバノンの我が国民は、帰還と解放までの道を歩み続けるために、そして我が国民の闘いによって、すべてが戻ってくるために、この問題は敵との紛争の中心であり続ける。そして我々は、平等や物々交換では満足しない。パレスチナの原因は神聖な権利、個人の権利であり、我々はいかなる場合もそれを放棄しないのだ。

演説の最後にメジャー同志は、“殉教者ジョージ・ハバシュ、アブ・アリ・ムスタファ、ヤセル・アラファト、アーメッド・ヤーシンの足跡をたどり、川から海までのパレスチナの返還と解放まで闘争と闘いの道を歩み続ける”と宣誓した。

その後、代表団と聴衆はパレスチナ革命の殉教者記念館に移動し、戦線事務総長の同志アーメッド・サーダットの名で花輪が捧げられ、殉教者作家ガッサン・カナファニの墓にも花輪が捧げられた。テルアルザータル、サブラとシャティラの殉教者、そして指導者アブマヘルアルヤマニに。

亡

- ・ベツレヘムの西の学校で、ナクバの記念行事が行われた。
- ・ナクバの記念日での衝突を恐れて、占領警察はエルサレムに数千の兵士を展開した。
- ・最高裁は、エアレイルプロジェクトに対する西岸を否決した。
- ・夜中を過ぎて、入植者たちの攻撃と対峙
- ・ガザでジャーナリストと正教協会がアブアクレの暗殺を非難する座り込みを行った。
- ・アルビレの北で、占領軍との衝突で10人が負傷した。
- ・ナクバ74周年を記念して、ガザで大規模なでもが行われた。
- ・カドリーエ大学の近くでの衝突で、数十人が窒息した。
- ・ヘブロンで入植者が、オリーブの木に放火した。
- ・入植者がナブルスの南の学校の前で学生を誘拐した。
- ・ジェリコでナクバの74周年の行事が行われた。
- ・ラマラで、ナクバ74周年の中央集会が行われた。

5月16日

- ・面会所で、エルサレム市民の獄中者であるムハマッド・ムシユダの母と兄弟が逮捕された。
- ・ジェニンで、占領に対するストライキと総動員を発表した、怒りの行進が行われた。

- ・ハイファでアブアクレとアルズバイディの暗殺を非難するスタンディングが行われた。
- ・パレスチナで一週間で、コロナの127人の新たな感染者と2人の死亡
- ・占領軍は、西岸で16人の市民を逮捕した。
- ・入植者たちの2日間の占領でジャパリの建物から非難
- ・コンテナ検問所でベイトウマールの指導学生を逮捕
- ・占領当局は、ジェニンの南西の3軒の鶏舎の取り壊しを通知した。
- ・ジェニン県での殉教者アルズバイディの玉地位を追悼する全面スト
- ・ベツレヘムでアブアクレを追悼するミサが行われた。

5月17日

- ・占領軍は、西岸の抵抗戦士たちにヘリコプターを使うことを検討している。
- ・米国下院議員は、ナクバを犯罪として認めるように要求。
- ・ベイトウマールで、占領軍の襲撃で衝突が起こった。
- ・アルアルウブ難民キャンプとヘブロン市で、占領軍との衝突が起こった。
- ・ハワラ検問所でパレスチナ人がイスラエルの銃弾で負傷。
- ・占領軍は、西岸とエルサレムで大規模な逮捕キャンペーンを開始した。
- ・深刻な容態にも関わらず病院内部で負傷者35人を逮捕した。
- ・イスラエル軍は、ヒズボラの無人機をうち落ちたと発表。
- ・ベイトダジャンで、占領軍は4人の市民を逮捕した。

5月18日

- ・イスラエルの特殊部隊がビルゼイト大学のイスラムブロックの7人のコーディネーターを逮捕した。
- ・ジェリコの北で、入植者の攻撃で、市民と娘が負傷した。
- ・米国の参加で、イランへの大規模な攻撃を想定した軍事演習をイスラエルが行った。
- ・占領軍は、西岸で15人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・占領軍のジェニンから撤退、西岸での侵攻と逮捕
- ・二日目、ベネットが西岸を襲撃。
- ・占領軍：シンワールとでデイフの暗殺ははまだ選択肢にある。
- ・ラハバ入植地は、岩のドームを取り除き、寺院を建設することを呼びかけた
- ・占領当局はヘブロン少年アブサバーハを釈放。
- ・サルフィットで入植者が50本のオリーブの木を破壊
- ・イスラエルの決定：入植者の旗の行進はバブ・アルアムドを通過する。
- ・ナクバ74周年で、ヘブロンで大規模な座り込み
- ・トルカラム：カドリエ大学への急襲で、学生数十人が窒息した。
- ・ビルゼイト大学の選挙で、イスラミックブロックが勝利

5月19日

- ・ヘブライ語の新聞：イスラエル軍は、シャリン・アブアクレの暗殺の捜査はしない。
- ・占領軍は西岸で15人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・エルサレムでの諸事件のエスカレートのもと、ゾアビはイスラエル連立から辞任した。
- ・ガンツ、米国訪問を開始
- ・ハーレッツ紙：旗の行進は、エルサレムの内と外で暴力的な対立に導く
- ・占領軍は、若いエルサレム市民を逮捕

- ・占領当局は、5人のエルサレム市民を自宅軟禁とした。
- ・イスラエル軍は、南部ガザでドローンを撃ち落とすと主張
- ・二人の入植者が、ヤバドの農業室の中身を荒らした。

5月20日

- ・テヘランは、モシェ・アロンを誘拐しようとした。
- ・イスラエルは、米国がパレスチナへの援助を再開することを支持
- ・入植者たちは、ナブス近くのアルーバドハンを襲撃
- ・拘束か月後、ネゲブのベルシバを攻撃したものの葬儀
- ・占領軍は、ヒズマ検問所で兵士を轢こうとしたとして、4人の市民を逮捕した。
- ・イスラエルの演習：国境からの抵抗戦士の侵入を含む、軍事的対立の準備をしている。
- ・ナブスの南で入植者が子供を轢いた。
- ・家族の建物がとりこわされた後、シリワンでテントが襲撃された。
- ・人民戦線は、アハメド・サーダトを書記長に選出した。
- ・カフル・カッドムの弾圧で、4人の青年が占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ・ナブスのジャバルサビハで、占領軍の発砲で5人が負傷。
- ・入植者たちがエルサレムで市民一人を攻撃した。

5月21日

- ・占領軍は、釈放された獄中者が礼拝しているところを逮捕した。
- ・占領軍が、アルマズラ・アルガルビエ村を急襲し、6人が負傷。
- ・55人の下院議員がアブアクレの死の状況の捜査を呼びかけた。
- ・ジェニンで、少年が殺され、他が占領軍の銃弾で、重症。
- ・ジェニンの難民キャンプで、殉教者のアムジャッド・アルファイエドの葬儀が行われた。
- ・占領当局は、カフル・アディックの建設の中止の7通の通知を出した。
- ・ジェニンで、若いアルファイエドの殉教の後全面ストが行われた。
- ・イスラエルの侵略で、ダマスカスで3人の殉教者。
- ・米国は、アブ・アキラ氏の殉教に関する包括的で透明性のある調査を改めて要求する。
- ・ベイト。ハヌーンの東で、多くの市民が窒息
- ・シェイク 米国がカチをテロリストのリストから排除したことは非難されるべきことである。
- ・入植者たちは、カフル・アディックの農民たちを攻撃
- ・シェイクジャラで、入植者が無差別に発砲したため、青年が負傷した。

5月22日

- ・西岸のファタハの地方組織が組織活動の凍結を決定した。
- ・占領軍は、ジェニンの西の大久村を襲撃した。
- ・イラクは、アラブの会議の声明でイスラエル国家を記すことに反対。
- ・数十人が、ゾアビの家の前で、連立に残るように要求するデモを行った。
- ・アルハディールでの占領軍との衝突で、青年が負傷した。
- ・世論調査：久米セット選挙でリクードがリード。
- ・西岸で複数の逮捕
- ・ジェニンの西の併合拡張の壁の近くで、占領軍は労働者を追い回した。
- ・入植者たちは、二人の少年を負傷させ、一人を誘拐しようとした。

5月23日

- ・占領軍は、シェク・ジャラから活動家ムハマド・アブフムスの事

オリーブの会通信 第21号(通巻27号)

務所を撤去した。

- ・ジェリコで建設中の2軒の家が取り壊された。
- ・エルサレムの4人の少年を逮捕した。
- ・占領軍は、ハーンユニスのが市で、催涙ガスで農民を標的にした。
- ・占領警察は、旗の行進の安全を確保するための準備をしている。
- ・西岸で青年が負傷、占領軍の逮捕、侵攻
- ・占領軍は、ジェニンのアルアルカ村を襲撃
- ・ヘブロン自治体は、国際社会にイブラヒムモスクを防衛するために即時に介入すると呼びかけた。
- ・ヘブロン南のヤッタの東で、複数の家と農業部屋を取り壊す通知を占領軍がおこなった。
- ・ヘブロンユダヤ化 占領当局は、イブラヒムモスクの階段をカットしはじめた。
- ・ラマラの詩で、占領軍によって青年が銃撃をうけた。

5月24日

- ・彼らはパレスチナの旗を掲げた。ベングリオン大学でのナクバの記念で学生が。
- ・3人が負傷、浅慮軍がジェニンから撤退し、市民を逮捕した。
- ・シンベト：ベンギビル暗殺作戦を計画していた容疑で、ハマスの細胞を逮捕した。
- ・逮捕と捜査が西岸で行われた。
- ・占領軍は、ヨルダン渓谷で、居住テントを取り壊し、押収した。
- ・占領当局は、入植地を合法化するためにデュラの土地520ドムムを押収した。
- ・自治政府は、米国政府にテロリストリストからPLOを外すように呼び掛けた。
- ・青年たちが、ベツレヘムのヘルワの墓交差点を封鎖した。

5月25日

- ・ハワラで入植者たちが銃弾で市民を攻撃。
- ・ナブルスで占領軍の銃撃で一人が殉教
- ・占領軍は、ラファの海で、二人の漁師を逮捕。
- ・クレナイカの人々への入植者たちの襲撃で、6人が負傷した。
- ・ガザの学者が、アルアクサモスクを支持して、行進を組織した。
- ・ベツレヘムの占領軍の家宅捜索とカメラの押収で、窒息者
- ・人民戦線の8回大会の結果、エルサレムは、紛争の中心として、民族的アイデンティティとして、残る
- ・追放政策がつづく、エルサレム市民とアルアクサの防衛局の長の追放が決定された。
- ・占領当局は、西岸最大の自然保護区を没収した。
- ・パレスチナ学者協会が、アルアクサを支持する学者の行進を組織した。
- ・ラファの海で逮捕した漁師を占領軍は釈放した。
- ・入植者たちは、ナブルスの南で車を燃やし、モスクの窓を割った。
- ・レバノン、デモ行進者が占領軍に火炎瓶を投げた。
- ・イスラエルは、ガザからのロケット発射に備えて、アイアンドームを配備
- ・リバーマンは、パレスチナの旗を掲げたことで、ベングリオン大学の予算をカットするように求めた。
- ・アルミザンは、ガザで死刑判決が継続していることを非難し、完全な停止をもとめた。
- ・イスラエルは日曜日の旗の行進の準備のため、エルサレムと混合市に数千の警官を配備した。
- ・入植者たちは、ナブルスの南のハワラの町を封鎖した。

- ・占領当局は、エルサレムの Beit Safa 地区の二つのアパートを取り壊した。

5月26日

- ・ハワラで、青年が占領軍の銃弾で負傷した。
- ・エルサレムの民族主義、イスラム勢力は、日曜日の入植者の侵攻への対応を呼びかけ
- ・占領軍裁判所入植者のアルアクサで礼拝を許可した決定を覆した。
- ・ハマスの、占領のエルサレムのユダヤ化は、大規模な爆発の引き金になる
- ・ナブルスのブルカで入植者が市民を攻撃し、3人が負傷した。
- ・日本の副大使が、ハーンユニスでの太陽電池パネルの設置のプロジェクトを竣工した。
- ・占領軍は、若いエルサレム市民を行政勾留にした。
- ・歴史的な記念碑を変更し、占領当局は、イブラヒムモスクにエレベーターを設置した。
- ・イスラエルの閣僚が、パレスチナ大統領とガンツの非公開の会談を暴露
- ・キプロスでのイスラエル軍の演習をめぐって、イスラエルとトルコの間の緊張
- ・米国は、イスラエルに旗の行進の経路の再検討を呼びかけた。
- ・ベツレヘムの南の二つの農業部屋を占領当局は取り壊した。
- ・占領軍は、ベツレヘムの南東で、学生を逮捕し、家々を捜索した。
- ・大統領は、フセイン・アルシェイクをPLO執行委員会の書記に任命した。
- ・イラク議会は、全会一致で、イスラエルとの正常化を犯罪とする法律を通した。

5月27日

- ・占領軍は、南部ガザでセキュリティフェンスを越えた2人の市民を逮捕した。
 - ・入植者のレースがあるため、エルサレムとヘブロン間の道が閉鎖された。
 - ・ジェニンで抵抗戦士と占領軍の間で衝突
 - ・アルジャジーラ年とワークは、国際刑事裁判所にシャリン・アブアクレの殺害を提訴することを決めた。
 - ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、4人の青年が占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
 - ・入植者がパレスチナの旗を取り除いた、占領軍は、ハワラの町でパレスチナの旗を再び掲げたため弾圧された。
 - ・ベネット：旗の行進は、日曜日に計画通りの経路で実施される。
 - ・占領当局は、ハワラの建物を兵舎に変えることを決定した。
 - ・外務省は子供の殉教者ゴネイムの処刑を非難した。
 - ・ヘブロンで入植者たちの攻撃で、10代の車の窓が割られ、負傷者がでた。
 - ・ツイッターは、ハマスの公式アカウントを禁止した。
 - ・ベツレヘムの南でのアルハデールでの衝突で、占領軍の銃弾で一人が殉教
 - ・占領軍は、家への入り口を土で封鎖した。
 - ・クレナイカで、入植者の攻撃に対する市民の反撃で10人が負傷。
 - ・ナブルスで28人が撃たれ、窒息した。
 - ・アルハデールでの対峙で、4人の青年が実弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ### 5月28日
- ・イスラエル軍は、ベドウィン兵が、武器を家に持ち帰るのを阻止

した。

- ・日本赤軍の創設者重信房子が釈放された。
- ・下院議員は、プリンケンにマサフェールヤッタでの住民の追放に関する手紙を送った。
- ・報道：“民政”は、自然保護区を入植地活動の重要地域に変えた。
- ・プリンケンは、アブアクレの死亡についての全面的な捜査の重要性を強調した。
- ・ジェニンのアルアクサ旅団は、占領東京に対して激しい攻撃、激しさを戦闘を行うと脅した。
- ・プリンで、入植者たちは、複数の市民の家を攻撃した。
- ・カルキリヤの行進でパレスチナの旗を掲げた。
- ・ハマスは、日曜日をエルサレムとアルアクサを守るための大規模な人民蜂起の日としよう。
- ・イスラエルは、安全保障上の利益のためにパレスチナ人労働者の数を増やす。
- ・カフル・カッドムでの占領軍との対峙で、銃撃と窒息で負傷者。
- ・タモウンの東で、占領軍は農業用のトラクターを押収した。
- ・PLO 創設 58 周年
- ・イスラエル警察は、3 人のピースナウの活動家を逮捕した。

5月29日

- ・オマン：我々は、イスラエルとの正常化合意に入らない。
- ・デヘイシャ難民キャンプの襲撃でイスラエルオフィサーが負傷、3人が負傷。
- ・ヘブロンでパレスチナの旗の行進、対峙に
- ・アルアロウブ難民キャンプの青年が太ももを撃たれ、重症に
- ・ベネット：我々は、エルサレムが決して分割されないことを誓う。
- ・22人が逮捕。入植者たちのさらなる侵攻の後の緊張と攻撃で
- ・占領当局は、ヤッタの東のハレット・アルマイを主要な入り口を封鎖して孤立化させた。
- ・逮捕者、早めのバブ・アルアモウド地域からの撤去。
- ・ヘブロンで衝突、アルアロウブキャンプでゴム被弾で子供が負傷。
- ・ヘブライ語の新聞：旗の行進の間、空軍機がガザの空を飛ぶ。
- ・ロッドで、旗の行進が始まった。
- ・中央ヘブロンでの衝突で5人の青年が銃撃され負傷した。
- ・エルサレムへの支持で、西岸の衝突で163人が負傷した。
- ・アンナジャ大学で、イスラエルの旗の行進をひなすためのパレスチナの旗を掲げるスタンディングが組織された。
- ・ナブルスの西で占領軍との衝突が発生した。
- ・パレスチナの旗の行進がエルサレムで入植者の行進と交差した。
- ・テコウアで。占領軍と衝突、窒息者
- ・占領軍は、礼拝者の意思の前に撤退した。

5月30日

- ・入植者たちは、ジャルドの土地に前哨基地の建設をはじめた。
- ・ナブルスの南でイタマール入植者の行進、市民が逮捕された。
- ・パレスチナー週間で132のアラな感染者
- ・イランの当局者、イスラエルはコダエイの暗殺の背後にいる我々は復讐する
- ・バイデン政権は、エルサレムに領事館を開くことを放棄し、かわりにそれに代わる改善方法に。9人が逮捕、占領当局は、バブ・アルムドに制限政策を課し、アルイサウイヤを襲撃した。
- ・占領軍は、アルビレ近くで銃撃を受けた。
- ・占領当局は、マサフェールヤッタで二つの取り壊し通知を手渡し

た。

- ・占領軍は、マルダの村の入り口を封鎖した。
- ・ガザで、アワダとラヤンの二人の獄中者への連帯のデモを行った。
- ・占領軍は、カルキリアの南で、井戸を破壊。

5月31日

- ・イスラエル外相は、旗の行進を行った過激派を非難。
- ・ナブルスの南で、複数の市民が逮捕された。
- ・アルビレの北で占領軍の銃弾で、青年が負傷した。
- ・パレスチナ外務省は、エルサレムでのテロリストの行進は、西岸でのテロ組織の直接的な延長である。
- ・青年が負傷。西岸での複数の逮捕とジェニンでの衝突
- ・ベツレヘムの東、テコアで占領軍との暴力的な衝突。
- ・デュラの南で、カルサ交差点で、占領軍の銃弾で、青年が負傷した。
- ・シリワンで、入植者たちが市民の家々を攻撃。

6月1日

- ・トルコ：我々のイスラエルとの対話は、パレスチナの大義の犠牲ではない。
- ・占領海軍が、ガザの海で、5人の漁師を逮捕した。
- ・米国務省：我々は。エルサレムでの領事館再開にコミットしている。
- ・取り壊しの準備のため、イスラエル自治体のブルドーザーは、イサウイヤと周辺の家を襲撃した
- ・アルアロウブキャンプの入り口で、占領軍によって若い女性が殺害された。
- 占領当局はヨルダン渓谷を占拠し、農業自動車やトラックを押し収めた。
- ・5月11日をパレスチナのメディアと連帯す国際デーとして採択された。
- ・占領軍は、西岸から6人の青年を逮捕。
- ・占領当局は、火曜日の夕方に逮捕した8人のうち、6人の漁師を釈放した。
- ・イスラム聖戦は、殉教者具フランとラスナを追悼した。
- ・占領軍は、マサフェールヤッタの居住テントを取り壊した。
- ・エルサレム、占領軍は、アルイサウイヤの家を取り壊した。
- ・占領当局は、マルダで建設中止の10枚の通知を渡した。
- ・占領軍は、ドラ政府病院の敷地を襲撃した。
- ・占領軍は、北部ガザのパレスチナ人の家を標的にした。
- ・ヘブロン占領軍は、住居の部屋と井戸を取り壊した。
- ・ネゲブとガリリーをユダヤ化する新たなイスラエルの計画
- ・入植者たちは、ジェニンの南のホミシ入植の撤退したエリアを襲撃した。
- ・アルアロウブキャンプで、占領軍と衝突で6人が銃弾で負傷した。

6月2日

- ・テルアビブの攻撃者の家の取り壊しが始まった。
- ・クネセットは、パレスチナの旗を掲げることを犯罪とする法案の第一回の予備審議で承認を行った。
- ・占領当局は、ベイタ交差点を7日継続して、封鎖している。
- ・デヘイシャキャンプで、占領軍の銃弾で市民が死亡。
- ・占領軍は、テルアビブ攻撃の行ったものの家を爆破した。
- ・入植者たちは、やsパッドで市民の車を攻撃
- ・西岸とガザの境界を封鎖
- ・ジェニンで、殉教者のピラル・カプハの葬儀に多くの人が集まった。
- ・ベネット：テロリストの家の取り壊しは、抑止のための適切な道具である。

オリーブの会通信 第21号(通巻27号)

・ファタハは、占領軍への抵抗のサイクルのエスカレートを呼びかけた。

6月3日

- ・占領軍は、ヘブロンのイブラヒモスクの近くで、女性を逮捕した。
- ・アルナビサレの村で占領軍の銃弾で青年が負傷。
- ・占領軍、ガザから武装した3人の男を逮捕
- ・入植者たちが Khirbet al-Farisiya に霊廟を建設開始
- ・占領軍は、アルハデールの町の木を燃やした。
- ・ロシア：エルサレムのアレクサンダー協会の所有権がロシアに移管がもうすぐ完了する。
- ・ Beit・ウマルでの衝突で、窒息者。
- ・テヘラン：国際原子力機関の長官がテルアブを訪問することは、機構の中立性に矛盾する。
- ・カフルカッダムの行進の弾圧で3人が占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ・ジャバル・サビ、Beit・ダジャン。カリユトで衝突が発生し、窒息者。

6月4日

- ・占領軍は、ジェニンのバラタ検問所でトラの女性が拘束された。
- ・占領当局は、ムラド・アルアッパシイを家族と聖地から離れさせた。
- ・占領軍はザラタ検問所で、ジェニンの二人の青年を逮捕した。
- ・占領軍は、4人の漁師を逮捕し、船のエンジンとネットをガザ海で破壊した。
- ・ガザ：ゴム被膜弾で二人の漁師が負傷した。

6月5日

- ・逮捕と負傷者、入植者たちがアルアクサを急襲した。
- ・ナクサの記念日に、数役人の入植者たちがアルアクサを蹂躪した。
- ・イスラエルはヒズボラとの戦争を準備している。」ヒズボラは10万発のミサイルをもっている。
- ・逮捕と召喚 634人がアルアクサを襲撃した。
- ・占領軍はあ、レバノンの軍用車に発砲した。
- ・占領軍、ナブルス近くで、爆発物をなげた。
- ・バブフッタで礼拝者の攻撃と逮捕
- ・2日目、数百人の入植者がアルアクサを襲撃
- ・占領軍は、イサウイヤとシリワンの町を急襲した。
- ・ハマスは、預言者への侮辱するインドの当局者の声明を非難

6月6日

- ・原子力機構—イランは核兵器をつくる能力は時間の問題。
- ・占領軍は、ジェニンのもっとも若い行政勾留の獄中者を釈放した。
- ・市民団体は、パレスチナの治安サービスがヘブロンでの平和的な座り込みを弾圧したことを非難。
- ・イスラエルの航空機がシリアの攻撃を開始

6月7日

- ・占領当局は、トカラムの東のBeit・リドの地下の井戸を取り壊した。
- ・ヘブロン県で、占領軍は、子供を含む6人の市民を逮捕した。
- ・202回目のアルアラキブの取り壊し
- ・占領軍は、カランディア難民キャンプを急襲した。
- ・イサウイヤで、逮捕と召喚
- ・占領軍は、Beit・ウマルの入り口で、釈放された獄中者を逮捕
- ・イスラエル軍は、Beitハヌーンに9台の軍用車で侵攻
- ・占領軍は、ティレ・バヘルを急襲し、通りのパレスチナの旗を

取り除いた。

- ・占領軍は、ヘブロンで、作業の中止、家と井戸の取り壊しを通知した。
- ・ナクサ 55周年のデモがガザで行われた。
- ・占領当局は、3人のエルサレム市民を投獄し、二人の女性獄中者の第三回の会期を延期。

6月8日

- ・西岸で21人の市民を逮捕した。
- ・占領海軍は、ガザの海で2人の漁師を逮捕した。
- ・占領軍は、北部ガザでドローンが墜落と発表。
- ・70歳のエルサレム市民がアルアクサへの入場を拒否された。フェイスブックで書きも身を口実にして。
- ・イスラエルは、レバノンの抗議にも関わらず、カリシガス田でのガスの採掘に固執している。

8月9日

- ・ハワラ検問所での占領軍への銃撃
- ・ベツレヘムの西、ビルアウネの4つのアパートを占領当局は取り壊した。
- ・ファタハ：国連総会の副議長にエルダンが得られたことは、我が人民の自由への意思への挑戦である。
- ・占領軍は、ジェニン市を急襲
- ・青年が負傷。占領軍は、西岸での逮捕キャンペーンを開始
- ・占領軍は、元獄中者のムハマド・アルフィラウイを再逮捕した。
- ・ハルフルの衝突で、少年が目を撃たれた。
- ・ハルフルの殉教者ムハマド・アブアイホウル葬儀に多くの人が集まった。
- ・集団的制裁—イサウイヤでたいっ量の搜索と逮捕。
- ・占領当局は、元獄中者のムフウイヤ・アルカムを再逮捕した。
- ・ハルフルへの占領軍の襲撃での対峙で負傷者。
- ・女性の逮捕とアルアクサの侵入が続く
- ・占領検察は、エルアド作戦の犯人を起訴

6月10日

- ・米国大使館は、パレスチナ問題部門を国務省事務所に変えた。
- ・アメリカは、イスラエルと9か国のアラブ諸国の安全保障協力を追及している。
- ・占領軍は、ハイファの海軍基地に侵入した少年を逮捕。
- ・占領軍は、アラバ交差点にロードブロックを設置した。
- ・シリアのダマスカス空港は、イスラエルの攻撃のあとフライトを停止した。
- ・占領軍は、UAE とパハリンにイランの脅威に対抗するためにレーダーシステムを配備した。
- ・ヘブロンで、入植者たちは、占領軍の庇護のもとジャーナリストを攻撃した。
- ・イスラエル軍は、ハルフルから110万シェケルを募集した。
- ・占領軍はシリアを爆撃

6月11日

- ・ヘブロンで、南のザノウタの村で入植者たちの攻撃で2人の市民が負傷した。
- ・アルアルブキャンプで、子供が占領軍の銃弾の破片で負傷した。
- ・マサフェールヤッタで、入植者たちに攻撃され、青年が負傷した。
- ・イランはイスラエルのシリア攻撃と国際空港攻撃を非難
- ・ハイファで、獄中者アワダ、ラヤンを支持するスタンディング
- ・アッパーズ 私にはネタニヤフ、ソモトリッチ、ベンギビルの政

府に参加することを否定しない。

・ガザ、数十人の市民が、アラキブ村の人々への連帯を行った。

6月12日

・レバノンでのカリシでのガスの採掘でイスラエルの動きに抗議を行った。

・ヘブロンで、占領当局は農業テントを取り壊した。

・占領当局は、ヤッタの東で、建設作業の停止を通知した。

・占領軍は、ハーンユニスで、シミの家を標的にした。

・占領軍は、若いエルサレム市民の自宅監禁の延長をした。

・イスラエル：統一リストの6番目の候補者が辞退した。この段階でクネセットに入りたくない

・占領軍の銃撃で、パレスチナの漁船がダメージを受けた

・アルハデールで、占領鶴ドーザーが、土地を更地に、95本のオリブの木を根こそぎにした。

・占領軍は、エルサレムのバブ。アルアモウド地区で、青年を逮捕した。

・市民が、占領裁判所から、ベツレヘム南の施設の取り壊しの停止の決定を引き出した。

・占領政府は、西岸での緊急規定の延長を決めた。

6月13日

・フサンの衝突で、市民が軍用ジープに日から窒息した。

・西岸で逮捕キャンペーンが行われた。

・フサンで占領軍との衝突が起こった。ジェリコの南でのジャベールキャンプの周辺で建設中の家を取り壊された。

・ワシントンポストの捜査で、イスラエル兵がアブアクレを殺した。

・欧州諸国が、無条件で自治政府への財政支援を再開

・エルサレムと死海の間、入植地庭園をつくる計画。

・占領当局は、ツバスの北のテントの取り壊しを認めるための請願を拒否

6月14日

・シュタイエは、エルサレムでの選挙をイスラエルが許可するように圧力をかけることを呼びかけ。

・シリワンのベティン・アルハワの住民を入植者たちが攻撃し、殴打し、逮捕。

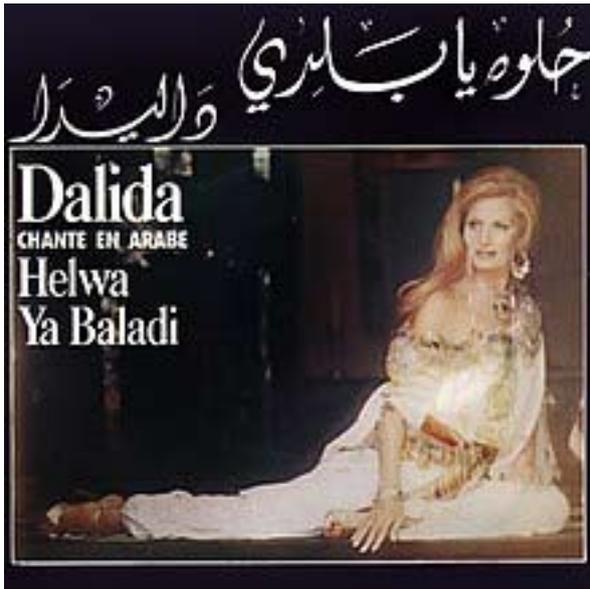
・西岸での侵攻、逮捕

・世論調査：リクードが優勢

・占領当局は、ベツレヘムの西、ワディ・フキンの土地からの退去を通知

・ハンガリーの反対にもかかわらず、欧州委員会は、パレスチナへの援助の再開を発表した。

・ペイルートで大規模な座り込み。UNRWAの権限を他の国際機関に移管することを拒否して・



ダリダ - 美しい私の国

あなたは緑です、私の国
 私の心は物語でいっぱいです
 あなたは緑です、私の国
 私の最初の愛は私の国にありました
 私は彼を決して忘れません、私の国
 私たちが別れる前の昔はどこですか
 この分離は不可能だと言っていました
 そして、私の頬を流れ落ちるすべての涙
 そこに留まるという希望に満ちていた
 愛の海で、海岸で

英語の翻訳

ダリダ - あなたは美しい、私の国

いくつかの美しい言葉

あなたは美しい、私の国

いくつかの美しい歌

あなたは美しい、私の国

私はいつもあなた、私の国に戻ることを望んでいました
 そして、常にそして永遠にあなたのそばにいてください

過ぎ去ったすべての記憶

いくつかの美しい言葉

あなたは美しい、私の国

いくつかの美しい歌

あなたは美しい、私の国

私の恋人、私の国はどこですか

彼は私、私の国から遠く離れていました

そして私が歌うときはいつでも彼のことを思います

私の最愛の人を教えてください、あなたはどこに行って
 私を残しましたか？

私たちは両方ともこの最も美しい曲を歌います

「私の国」という言葉は、2行の間の曲でとても美しいで

オリブの会通信 第21号(通巻27号)

す

La la la oh oh oh la la oh oh oh

いくつかの美しい言葉

あなたは美しい、私の国

いくつかの美しい歌

あなたは美しい、私の国

私はいつもあなた、私の国に戻ることを望んでいました
そして、常にそして永遠にあなたのそばにいてください
あなたは月です(「あなたは美しい」という意味です)、
私の国

あなたは美しい、国

これをメールで送信

BlogThis !

Twitter で共有する

Facebook に共有する

レーベル : Lyric Dalida (Dalida)、lyric translate
ダリダ (Dalida、本名 : ヨランダ・クリスティーナ・ジ
リヨッティ (Iolanda Cristina Gigliotti)、1933 年 1
月 17 日 - 1987 年 5 月 3 日 [1]) は、エジプト出身のイ
タリア系フランス人歌手。

フランスの国民的歌手として 31 年間活動した。晩年は
うつ病に苦しみ、1987 年 5 月 2 日夜バルビツール酸系過
量服薬により自殺を図り、翌日に死亡した。彼女の墓は
パリのモンマルトル墓地にある。

これまでに全世界で 1 億 7,000 万以上のレコードを売上
記録を有している (2018 年時点)。

(この曲は youtube で helowa ya bladi で検索すれば聞
くことができます。)

The Urgent Call of Palestine

この歌は、1972 年ガザのゼイナブ・シャースによっ
て歌われ、日本では、加藤登紀子さんがカバーしていま
した。

彼女はエジプトのアレクサンドリアで生まれ育ちまし
たが、ソングライターの Zeinab Shaath は、自分の家
族がガザの出身であることを指摘して、自分自身をガザ
ウィーヤだと誇らしげに説明しています。1948 年以前
に父親がパレスチナから追放されたことが彼女の生い立
ちを形成し、1960 年代後半にパレスチナ革命が再び勃
発すると、10 代のゼイナブはその大義に捧げる曲を書
き始めました。その後の 10 年で、彼女はパレスチナ
人アーティスト Ismail Shammout の最初の短編映画に

出演し、自身のレコードをリリースした後、3 つの大陸
で独自の音楽詩を演奏しました。

パレスチナの緊急呼びかけ

作詞 : ラリータ・パンジャビ

聞こえませんか

パレスチナの緊急呼び掛けを

苦しめられ、拷問され、打撲傷を負い、ボロボロにされ
た

彼女の息子と娘はみな散り散りになった

聞こえませんか

パレスチナの甘く悲しい声

彼女は銃声の上で囁く

彼女のすべての娘たちと太陽たちを手招きする

聞こえませんか

パレスチナの苦しみ

解放旗 高く掲げよ

パレスチナ向け

やるか死ぬかしよう

パレスチナの緊急の呼びかけを聞かせてください

The Urgent Call of Palestine

Lyrics: Lalita Panjabi

Can't you hear

The Urgent call of Palestine

Tormented, tortured, bruised and battered
and all her sons and daughters scattered

Can't you hear

The sweet sad voice of Palestine

She whispers above the roars of the guns

Beckoning to all her daughters and sons

Can't you hear

The agony of Palestine

Liberation banner, raise it high

for Palestine

Let us do or die





パレスチナの詩

ムハムド・ダルツウイシュ

殺人鬼と無垢

それは愛、波のように
私たちの至福の喜びの再発、古い、新しい
速く、遅く
ガゼルが自転車を漕ぐように無邪気で
西の市のような猥雑さ
困っている人のような無謀さ
不機嫌で凶暴
想像力がフレーズを並べるように冷静
暗く、憂鬱で、はじけるような光。
空虚でありながら矛盾に満ちている

それは動物であり、天使である。
千馬の力、幽霊のような軽さ
曖昧、小心、平和ボケ
逃げても逃げても戻ってくる
よくも悪くも扱われる
私たちが感情を忘れたとき、不意打ちを食らわせる。
前触れもなくやってくる
それは無政府主義者 / エゴイスト / です。

マスター / オンリーワン / マルチプル
私たちは、あるときは信じ、あるときは信じない。
しかし、それは私たちに無関心である
私たちを一人一人追い詰め
冷静な手つきで私たちを殺す

それは殺人者であり、無邪気である。

おいしいパレスチナ



パミーエ ベジタリアンのためのオクラとトマトのシチュー

パミーエ（英語ではオクラ）は、中東やアジアでよく食べられている料理である。パレスチナを含むレバント地方では、肉を入れたり入れなかったりしながら、トマトと一緒に煮込むことが多いようです。アルワさんのパミーエのレシピは、ヴィーガンバージョンです。ヘルシーで簡単に作れるので、イスラム教徒やキリスト教徒に断食期間中に人気のある料理です。

ヘブロンテル・ルメイダにある彼女の家に向かう途中、アルワと電話で話すと、彼女の近所に入りするイスラエル兵が私を入れてくれないかもしれないと警告された。テルルメイダに近づくにつれ、タクシーの運転手も緊張した様子で、イスラエル兵から見えないように、検問所から100メートルほど離れたところで私を降ろした。アルワの隣人たちは、前日、帰宅のために検問を受ける前に、身体検査を受け、質問されたのだ。

テル・ルメイダは、ヨルダン川西岸地区最大の都市ヘブロンを見下ろす丘の上にある。ヘブロンは、パレスチナ人居区内にイスラエル人入植地があるヨルダン川西岸地区唯一の都市である。ヘブロン旧市街には500人から800人のイスラエル人入植者がおり、彼らを「保護」するために数千人の軍人がいるため、移動制限、検問、追放、暴力といった圧制が生み出されている。いくつかの通りはパレスチナ人居住者の立ち入りを禁止している。多くの店が閉鎖され、パレスチナ人の家族は引っ越しを余儀なくされている。ほんの数十年前までは活気に満ちていた旧市街は、ほとんどゴーストタウンと化している。テル・ルメイダでは、約40世帯のイスラエル人入植者がパレスチナ人住民の隣に住み、一部は軍事封鎖区域となり、検問所を通して徒歩でしかアクセスできな

くなっている。アルワはここに住んでいる。

「あの日のことは一生忘れない。1984年、少数のイスラエル人入植者がテル・ルメイダにやってきて、彼女の家族の家の隣にキャンプを張った日のことを、アルワは「灰色の日」と呼んでいます。彼女は11歳だった。それ以来、彼女とその家族にとって長い戦いが続いている。彼女の実家の窓には、入植者がよく投げる石から守るために、分厚い金属製のネットが張られています。空手の黒帯を持つアルワさんは、外国からの訪問者を歓迎し、実家に連れて行き、テルルメイダでの生活の現実を見てもらうことが多い。彼女はパレスチナの平和的抵抗運動に積極的で、特にテル・ルメイダでの土地の強奪、攻撃、移動の制限に対して戦っています。「私は、血の気のないところでは、どんな方法でも抵抗するつもりです。この点で私は非常に明確である。私は、どこからの血にも、どの側からの血にも反対です。私たちパレスチナ人に起こったことは、国際的な決定であり、それを解決するには、国際社会から来る必要がある。そうでなければ、うまくいきません。私はまだ希望を持っているし、夢も持っている。Inshallah」です。

アルワさんは料理が好きです。パレスチナ料理だけでなく、いろいろな料理を作ることができる。また、健康的な食生活を送りたいので、パレスチナの伝統的なレシピを少し変え、肉を使わない料理もよく作ります（イギリス人の夫はベジタリアンです）。食材の買い出しも一筋縄ではいかない。彼女の家からすぐのところには小さな店があり、小麦粉や米などの基本的なものは売っています。しかし、野菜や果物、肉を買うには検問を通過しな

ければならず、それにどれだけ時間がかかるかわからない。だから、しっかり計画を立てる必要があるんです。そして、冷凍庫に食料を保管しておくことです。

アルワさんの家族の物語については、こちらをご覧ください。また、TIPHのウェブサイトでは、ヘブロンについてより詳しく知ることができます。また、この地域にお住まいの方は、イスラエルの元兵士が同行する Breaking the Silence のヘブロンツアーに参加することもできます。

レシピ

バミーエ ベジタリアンのためのオクラとトマトのシチュー

難易度：中

準備時間 10分

調理時間 40分

4～6人分

材料

オクラ（冷凍または生） 700g

玉ねぎ（大）1個

トマト（大）7個

レモン1個

塩 小さじ3

ブラックペッパー

ベジタブルストック1個（必ずヴィーガン用を使用すること）

オールスパイス

クミン

赤唐辛子 1本

ニンニク 4片

オリーブオイル

作り方

冷凍オクラを使用する場合は、室温で解凍しておく。生のオクラの場合は、先の部分（茎）を切り落とし、洗って水気を拭き取る。

玉ねぎは皮をむき、さいの目切りにする。大きめのフライパンにオリーブオイル大さじ3～4を熱し、さいの目に切った玉ねぎを入れ、中火で5分ほど炒める。

オクラを加え、強火できつね色になるまで炒める。

トマトの下ごしらえをする。根気のある方は、皮を取り除くとよいでしょう。鍋にお湯を沸かします。トマトを洗い、鋭いナイフで2、3か所突き刺す。沸騰したお湯にトマトを数個落とし、皮にシワや裂け目が入り始めたらすぐに取り出します。30秒から60秒を目安に取り出してください。トマトをすくい上げ、冷水につけます。トマトの皮をむき、果汁を残して薄くスライスする。オクラにトマトを加え、レモン汁1個分、塩小さじ3、黒こしょう少々、水250mlを加える。

沸騰したら、ブイヨン1個、オールスパイス小さじ1、クミン小さじ1を加え、さらに沸騰したら、ブイヨン1個、オールスパイス小さじ1を加える。かき混ぜて溶かす。赤唐辛子を真ん中に置き（刻まないで）、弱火で30分ほど煮込む。濃くなりすぎたら、煮込みながら水を足せばよい。

煮込みが出来上がる5分前に、にんにく4片をみじん切りにして、オリーブ大さじ3と一緒に小さなフライパンで炒める。

オクラの煮込みを味見して、お好みで塩・コショウを加える。火を止めて、炒めたニンニクを混ぜ合わせる。

アルワさんはチキンライスの付け合せにしましたが、パレスチナ人は温かいアラビックパンと一緒にメインディッシュとして食べる人が多いようです。

ザキ！（アラビア語でおいしい）

守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。パレスチナの農民の土地を守る闘い、生活を守る闘いを支援します。集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合(UAWC)に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会（オリーブノカイ）

他行等から振り込む場合

店名（店番）：〇九九店（099）
預金種目：当座
口座番号0303500



8月10日エインヤサミーヤ学校の取り壊しが占領裁判所で決定された



8月6日イスラエル軍は、ガザに対する先制攻撃を行い、標的とんくあったイスラム聖戦がイスラエルへミサイルで反撃



8月9日にイスラエル軍は、ナブルスでファタ系のアルアクサ旅団の3人を殺害し、40人を負傷させた。



7月14日パレスチナを無視したバイデン米国大統領がベツレヘムの聖誕教会で礼拝

今号の内容

イスラエルのガザ攻撃を非難する.....1

米国の中東戦略とパレスチナ.....2

世界秩序の歴史的側面.....3

7月23日革命の原則について.....4

ガッサン・カナファアーニー殉教50周年・5

パレスチナ日誌.....6

パレスチナの愛した歌.....11

パレスチナの詩.....13

おいしいパレスチナー.....14

トピック.....16



8月9日墓参りをしていた子どもたちがイスラエル軍に殺害され、家族は、国際刑事裁判所に訴えることに



8月11日ガザの空爆で負傷し、東エルサレムで治療を受けていた子どもの一人リヤンチャンが亡くなった